

## 令和5年度 会派議員派遣報告書

会 派 名	みらい
議 員 名	住田 誠
議員派遣先名	オンラインセミナー

### 派遣費用

科 目	支出額	摘 要
研修・研究費	15,000 円	研修受講料
研修・研究費	660 円	振込手薄料
合 計	15,660 円	

### 1 三原市での課題と派遣の目的（本市の現状と課題を明確に）

不登校の児童生徒数が増加傾向となっており、その対策が必要と考え、「ひきこもり」に対して多くの知見と実績のある講師のセミナーを受講した。

### 2 実施概要 （1カ所目）

実 施 日 時	派 遣 先	(株) 廣瀬行政研究所が開催するオンラインセミナー
令和6年1月24日 10:00~13:00	担 当 部 局	—

報 告 内 容 ・ 所 感	<p>次のテーマ、講師による講演の内容を5つに整理して報告します。</p> <p>セミナーのテーマ「ひきこもり本人の心情から見える能登半島自身の実態と日常の学校現場の課題」</p> <p>講師：特定非営利活動法人「KHJ全国ひきこもり家族会連合会」副理事長 池上 正樹 氏</p> <p>ひきこもり者の人数：15~64歳で146万人（人口の2%）、そのうち、自分を変えたいと思っている人は76%</p> <p>要因：リストラ、パワハラ、いじめ、疾病など。学校時代の苦しい体験がフラッシュバックしているケースもある。</p> <p>(1) 家族や支援者の対応方法として、まず、ひきこもりは病気や障害ではな</p>
---------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

く、本人の心情であるということを理解することが重要。「苦しい時は逃げていい」「生きていてくれるだけでいい」など、本人を認めて、悩みや弱音をしっかりと聞いて、少しずつ関係を構築するのが良い。

仕事に就くなど、「縦の成長」を求めず、一緒に悩む、支え合う、関わり続けるといった伴走的な「横の支援」が重要（本人は家族の役に立とうとしているケースも多く、協調して、コミュニケーションを円滑にとり、寄り添いながら答えを一気に求めない。犯人探しや原因探しをせず、将来や仕事などで追い詰めない。急かさず、否定せず、遮らず、内容を認めて聞いてあげる）。

また、勉強はどこでもできるし、学校より、生きることが大事だと共感して、興味があることを伸ばしてあげる対応が良い。

（２）安心できる場所、緊張しない環境が必要（自分の生存領域である居場所が家の中）で、自死を望んでいる訳ではなく、ひきこもりは生き延びようとしている証。本人は、自分が情けないとか後ろめたいという気持ちと何とかしなければという焦りと葛藤している。

（３）社会として、「ひきこもり」とラベリングしないことが重要。働いていない（本人の努力不足・社会の役に立っていない）とか犯罪予備軍と周りから見られていることが、コミュニケーションや相談の弊害になっている。このような本人の気持ちがあり、同級生がいるかもしれない行政窓口や、個人を特定する情報の聞き取りから始める支援団体へも相談に生き難い状況がある。また、「こうすべき」と決めつけている専門者へも相談は難しく、状況が悪化するケースもある。引き出し専門業者も強引なケースがある。

（４）行政の課題として、相談者が窓口をたらい回しにされるケースや、本人がいないと対応できないとかが挙げられる。また、国の施策があっても法律がなく自治体が動けない現状もある。関連法の組み合わせで支援しても、制度の狭間で取りこぼされるなど、行政単位で対応が違う。K H J 連合会では、基本法を提案している。

（５）家族や支援者もメンタルをやられる事があるので家族会や専門の方と一緒にチームで支援することが重要（支援を求めている家族は多い）。

#### K H J 家族会のサポート体制

１、家族が相談する。 ２、親が学習する。本人を認める。 ３、第三者から情報を得る。 ４、居場所を作る。家族が人間関係を回復させる。 ５、多様な役割づくり（生き方・社会参加） ※無理をせず、揺り戻しがあることも受け入れて取り組むことが重要

<p>市政に活かせること (まとめ)</p>	<p>ひきこもりに対しては、相談・支援窓口が、当事者を否定せず、相談内容をよく聞き、伴走して支援する体制をとることが重要だと考える。専門者として「決めつけた助言」を行ったケースなども、内部でチェックできる体制を整えることも必要だと感じる。</p> <p>不登校の児童生徒に対しても、教諭や担当の職員が、上記と同じような考えや取り組みは活かせると思う。</p>

※ 施設先の写真・資料等を必ず添付すること。